

～富士市に伝わるかぐや姫のお話～



延暦年間、桓武天皇の頃のことです。姫名郷、籠畑の里に竹採のおじいさんとおばあさんがおりました。

ある日のこと、おじいさんがいつものように竹やぶで竹を切っていると、どこからか赤ん坊の泣き声が聞こえてきました。足元に目をやると、ほんのりと光る竹がありました。

不思議に思い竹を切ると、中に赤ん坊がいました。おじいさんは赤ん坊を手のひらに乗せて急いで家に帰ると、おばあさんは「子供のいない私たちに神様が授けてくれたのに違いない」とたいそう喜びました。

赤ん坊はおじいさんとおばあさんに大切に育てられ、大変美しい娘になりました。夜空に輝く十五夜のお月様のようなだったので「かぐや姫」と名付けられました。

美しいかぐや姫の評判は国中に広まり、大勢の人々が姫の姿を見ようと籠畑にやって来るようになりました。



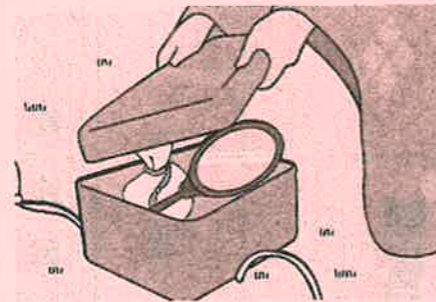
この話を聞いた国司様が御殿へ上がるようにと使いの者をよこしましたが、かぐや姫は会おうとしません。

国司様はどうとうかぐや姫の所までやってきて姫の元で一緒に暮らすようになりました。

二人にとって幸せな日々が夢のように過ぎてゆき、やがて五年の月日が流れました。

そんなある日のこと。かぐや姫は「悲しゅうございますが、お別れの時が参りました」と、一つの箱を残して富士山に登っていきました。

箱の中には不老不死の薬が入っていましたが、国司様は姫がいなければ不死の薬もいらないと悲しまれ、姫の後を追って富士山の頂上まで登っていきました。



頂上には大きな池があり、池の中には御殿が建っていました。国司様が池のほとりにたたずみかぐや姫を呼ぶと、御殿の中から姫が微笑みながらお迎えに出てきました。

それからかぐや姫は国司様の手をとり二人して御殿の中に入っていったということです。

おじいさんとおばあさんは、かぐや姫がいなくなってたいそう悲しみましたが、今でも姫のいる富士山を守るよう富士岡の寒竹権現社に祭られています。

イラスト提供：富士市

令和元年

9/22日

午後3時15分から
8時30分まで

※荒天の場合、中止

第29回 姫名の里 まつり



会場：
竹採公園

(富士市比奈 2085-4)



ご注意

- 当日、竹採公園前の道路は午後3時から9時まで歩行者専用となります。車両の通行は出来ませんのでご協力をお願いします。
- 駐車場に限りがありますので、なるべく徒歩か自転車でおいください。
- 会場内及び周辺でのドローン等の飛行は来場者の安全確保のため禁止します。

＜主催＞ 吉永地区まちづくり協議会・姫名の里まつり委員会

プログラム

15:15 オープニング 姫陣よしなが・子姫・長・子どもたち・かぐや姫・翁・姫・国司・町内会長・若衆

15:45 始めのセレモニー
 伝説・童話 吉永おはなしの会
 創作曲 婦人会コーラス
 誕生の踊り 姫の里民踊愛好会

~~~~~ 伝説 第一部 幼少期 ~~~~~

16:45 子どもの誕生 原田清流子ども太鼓  
 子どもの幼少期 吉永子ども錬成太鼓

~~~~~ 伝説 第二部 青春期 ~~~~~

17:20 風華 他 姫陣よしなが
 青春（前期Ⅰ） 東中と富士岡神楽
 青春（前期Ⅱ） 東中太鼓
 青春（後期Ⅰ） 姫名太鼓（中比奈）
 青春（後期Ⅱ） 第六天太鼓（東比奈）

~~~~~ 特別出演 ~~~~~

18:45 せき ちえ （フルート演奏）

~~~~~ 地区の代表伝統芸能 ~~~~~

19:15 泉裕紀とかぐや姫 大人と子どもの伝統舞踊 ~創作 姫名の里~

~~~~~ 地区の代表伝統芸能 ~~~~~

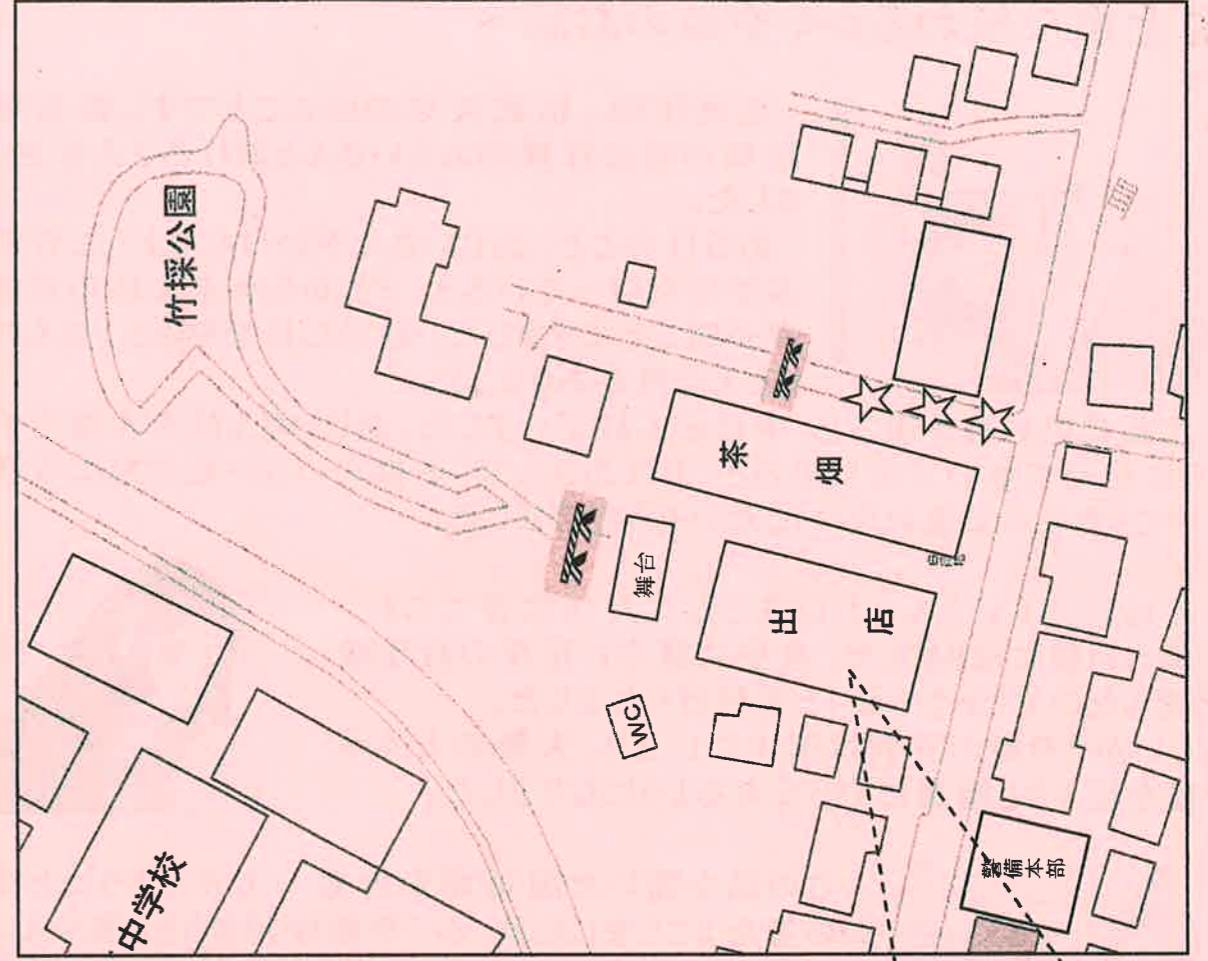
19:40 東中と大龍の舞保存会

20:15 結びのセレモニー 花火打ち上げ

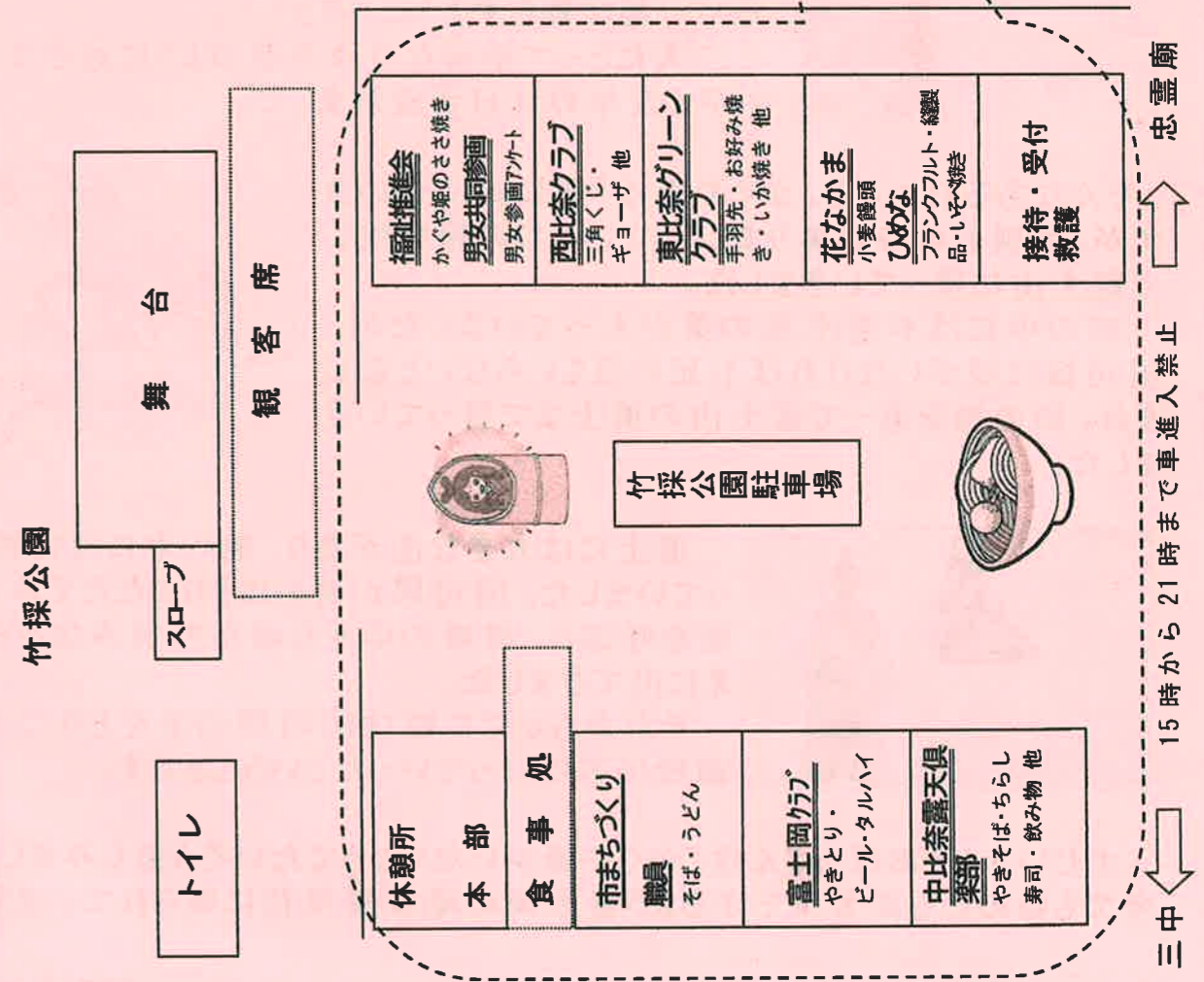
※出演の時間帯は、多少のずれが生じる場合もございますのでご了承ください。

## 姫名の里まつり 会場案内図

☆は竹かぐや設置予定箇所



※舞台横より舞台裏へは関係者以外立入禁止です。  
 ※竹かぐや設置箇所より北側は立入禁止です。



15時から21時まで車進入禁止 忠霊廟

三中